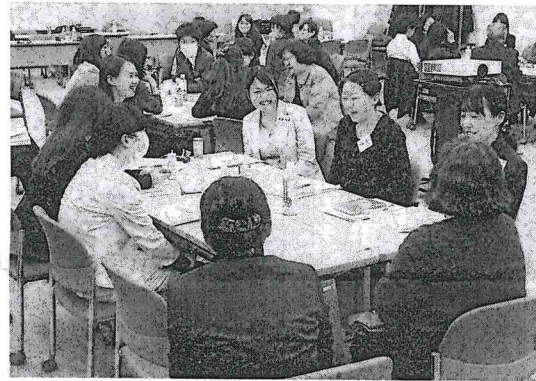


インフォームド・コンセント

SMONAが体験研修



協同組合臨床開発支援ネット

ワーク(SMONA)は1日、「模擬患者参加型医療コミュニケーション研修(CRCのための模擬患者参加によるロールプレイ実践)」を都内で開いた。

同研修会は、模擬患者とロールプレイと、その後のディスカッションを通じて、CRCにとって「より良いインフォームド・コンセントとは何か」を実践的に考えることを目的に行われているもので、内容のユニークさもあり、例年好評

を博している。

参加者は、5〜6人を1グループとし、一人ずつ順番に約20分の持ち時間を使って、あらかじめ用意された同意説明文書をもとに模擬患者へ治療参加についての説明を行う。目標は時間内の同意取得ではなく、CRC側の伝えたいことや、患者側の治療に対する不安や疑問をお互いにイメージし、どこまで共有できたかという「コミュニケーションの達成度」に重点を置いていく。

グループの残りのメンバーは、観察者としてインフォームド・コンセントの内容、患者の反応をモニターし、持ち時間終了後に患者からのフィードバックも含め、各グループ内でディスカッションし、自分では気づくことが難しい自身の会話の傾向や表現方法などの発見につなげる。

説明を受ける模擬患者も、性格、職業、病歴、家族構成等、背景がそれぞれ詳細に設定されており、各グループをローテーションで回るので、「初対面の人とのコミュニケーション」という状況にはリアリティがある。

ロールプレイ終了後に行われたグループ発表では、▽患者背景を把握しつつ、治療参加を気持ち良く納得してもらおうことの難しさを改めて感じた▽相手のペースに呑まれた際、どのタイミングで会話を軌道修正すればよいか迷った▽「同意してもいい」との気持ちがあ先立ち、焦りから「患者背景を理解しよう」との意識に至らなかった―などの意見があった

また、▽治療に参加するメリットは、説明する側も十分理解していないと患者の理解は得られないことがよく分かった▽他のCRCの説明を直接見ると、患者からの感想が聞けることは日常業務にはないので非常に貴重な体験だった▽患者の言葉の端々には、いろいろなヒントが隠されており、「個人の特性を知った上で説明する」というコミュニケーションの基本を再認識した―などの声も寄せられた。